

2019年度第10回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「サケの遡上の観察とふ化場の見学」を実施しました。

日 時：2019年11月16日（土曜日）午前8時40分から午後3時まで

場 所：筑西市鬼怒川サケ孵化場と五行川

参加者：34名

結 果： 往路のバスの中で、サケについて、どんな魚か、サケの一生、人工孵化事業について学び、筑西市の新川島橋のたもとにある鬼怒小貝川漁業組合の事務所に到着しました。10月の台風19号で、鬼怒川が増水して孵化場も浸水し、やっと泥を除いた状況でした。また、鬼怒川の水位もなかなか下がらず、やっと水位が下がり捕獲場の整備が終わったところでしたので、捕獲や孵化作業の見学は見学できず、宮田組合長から写真を使用して捕獲から採卵、受精、飼育、放流までを丁寧に説明していただきました。そして、一匹の雌サケは2500個～3000個の卵を持ち、1つの卵が0.25g位なので、卵の重さは1kg位になり、それを何回かに分けて産卵すること、放流したサケの2～3%しか戻らないことなどを学びました。説明の後、ご厚意で、掃除が終わったばかりの孵化場を見学しました。まだサケを捕獲していないので、中はがらんとした状態でしたが、参加者は興味深く色々な道具などを見て質問をしていました。

二ノ宮道の駅に移動し昼食をとり、午後は、五行川に向かいました。仙在橋のたもとでバスを降り、橋から川をのぞき込むと、コイに混じってサケが上流を向いて泳いでいるのが見えました。五行川も台風の影響か少し水量が多く、流れも速いように感じました。水は澄んでいたもので、岸から川を覗くと、3mくらいの処に泳いでいるサケを観察できました。観察していると、メスのサケが産卵床を掘るために、浅瀬で横になって尾びれをバシャバシャと動かして、砂利をどかしているのが、何回も観察できました。この作業に感激していた人もいました。帰りの時間が近づいたので、バスを駐車してある総合福祉センターへ向かいましたが、名残惜しそうな家族もいました。

（腰塚昭温）

次に観察会の様子を紹介します。



宮田組合長よりサケの孵化事業の説明を受ける



清掃が終わったばかりの孵化場の見学



五行川で、サケの遡上の観察



雌サケの産卵床掘り